

シリーズ研修会 2021 のお知らせ

(一社)福山市薬剤師会
共 催 福山大学薬学部

平素は当会事業にご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、シリーズ研修会 2021 ですが、福山大学薬学部 生体有機化学研究室 教授 重永 章 先生に、下記日程にてご講演いただきます。皆様、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、今回は第2回目が第2火曜日となりますので、お間違えのないようご注意ください。

テーマ:「実務経験を積んだうえで有機化学を学び直す」(全3回)

薬学のアイデンティティは“化学”だと言われることが多々あります。なぜでしょうか？日本薬学の祖 長井長義先生が有機化学者だったからかもしれませんし、医療系専門職の中で化学を広く学ぶのが薬剤師のみだからと答える方もいるでしょう。さて、近年では薬学部6年制化に伴って臨床実務教育が増え、相対的に化学の割合が減ったとの声が聞かれます。また、遺伝子工学的手法により調製された抗体医薬品が注目を集めるのに従い、医薬品開発における化学の存在感が薄れている印象を受けているかもしれません。今後も“化学”は薬学・薬剤師のアイデンティティと言われ続けるのでしょうか？それとも、新たなアイデンティティを獲得するのでしょうか？そもそも、科学の一部を切り取って“化学”のラベルを付け、それをアイデンティティと考えることは合理的なのでしょうか？残念ながら、私は明確な答えを持ち合わせていません。今回の研修会では私が3つの話題を提供し、実務経験を積まれた聴講者の皆様と一緒に、これらの答えを探してみようと思います。

日 時: 令和3年11月2日 第1火曜日 19:30～ 演 題:「薬学部での有機化学教育」

要 旨: 薬学部の教育では昔に比べ、有機化学の割合が減ったと言われる。私が学生だった頃と比較し、本当に有機化学の教育内容は変わったのでしょうか？第1回研修会では、現任地の福山大学薬学部および前任地の徳島大学薬学部で私が担当した講義を概観しながら、何が違って何が変わっていないのか、何を变えるべきで何を变えないでおくべきなのか、聴講者のご意見も伺いながら考えたいと思います。

日 時: 令和3年11月9日 第2火曜日 19:30～ 演 題:「ノーベル化学賞」

要 旨: 今年のノーベル化学賞は、不斉有機分子触媒の開発に対して与えられました。この成果を含め、私たちは多くの化学的成果の恩恵にあずかっています。第2回研修会ではこれまでのノーベル化学賞を振り返り、化学が薬学のみではなく世界に与えたインパクトを理解することを通し、薬学部で化学を学ぶ意義を越え、人類にとって化学を探求する意義について考えてみたいと思います。あわせて、今年の受賞内容についても解説します。

日 時: 令和3年12月7日 第1火曜日 19:30～ 演 題:「最先端の化学研究」

要 旨: 科学は日々進歩しています。それに伴い、化学も日々変化しています。私の専門分野は有機化学ですが、量子化学計算もすればウェスタンブロットングも行います。第3回研修会では私のこれまでの研究の変遷を紹介し、そもそも化学と他分野を区別する意味があるのか考えるとともに、今一度、薬学部で化学を学ぶ意義について議論したいと思います。

講 師: 福山大学薬学部 生体有機化学研究室 教授 重永 章 先生

場 所: 福山大学社会連携推進センター(旧宮地茂記念館)4階(福山市丸の内1-2-40)

研修費: 一般 1,000 円 * 事前の申込は不要です * 日本薬剤師研修センター

* 研修シールを受け取るには「薬剤師名簿登録番号」が必要です。

シール申請中

* マスク着用や、咳・発熱等の症状がある場合の参加見合わせなどにご協力をお願いいたします。

次回のシリーズ研修会は
10月19日(火)です